

マスク着用の考え方

※詳細は厚生労働省ホームページでご確認下さい

	身体的距離 ^(※) が確保できる ※2m以上を目安		身体的距離が確保できない	
	屋内(注)	屋外	屋内(注)	屋外
会話を行う	着用を推奨する 十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可	着用の必要はない (例:ランニングなど離れて行う運動)	着用を推奨する	着用を推奨する
会話をほとんど行わない	着用の必要はない	着用の必要はない (例:ランニングなど離れて行う運動)	着用を推奨する (例:通勤電車の中)	着用の必要はない (例:徒歩での通勤など、屋外で人とすれ違うような場合)

(注)外気の流入が妨げられる、建物の中、地下街、公共交通機関の中など

※夏場については、熱中症防止の観点から、屋外の「着用の必要はない」場面で、マスクを外すことを推奨

※お年寄りや会う時や病院に行く時などハイリスク者と接する場面にはマスクを着用する

＜小学校から高校段階の就学児について＞

○マスク着用の必要がない

(屋外)

他者と身体的距離が確保できる場合(例:離れて行う運動や移動、鬼ごっこなど密にならない外遊び)や、他者と距離が確保できなくても会話をほとんど行わない場合(例:屋外で行う教育活動(自然観察・写生活動等))

(屋内)

他者と身体的距離が確保できて会話をほとんど行わない場合(例:個人で行う読書や調べたり考えたりする学習)

＜保育所・認定こども園・幼稚園等の就学前児について＞

- ・2歳未満の子どもでは**推奨されません**。
- ・2歳以上の就学前の子どもについても、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、**マスク着用を一律には求めています**。

本人の体調がすぐれず持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理に着用する必要はなく、特に夏場については、熱中症予防の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、**マスクを外すことを推奨します**。

問6 マスクを着用する場面、外してよい場面はどのような場面でしょうか。※マスクの着用に関連するQ&Aより一部省略

＜屋外の場合＞

- ・他者と身体的距離(2m以上を目安)が確保できない中で会話を行う場合は、マスクの着用を推奨します。
- ・他者と身体的距離が確保できる場合(例:公園での散歩やランニング、サイクリングなど)や、他者と距離が確保できなくても会話をほとんど行わない場合(※)(例:徒歩や自転車での通勤など、屋外で人とすれ違う場面)は、マスクの着用は必要ありません。
- ・特に夏場については、熱中症予防の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。

※「会話をほとんど行わない」とは、屋外で人とすれ違う際に簡単な挨拶を交わす場合や、携帯電話で話している者の横を立ち止まらずに通るような場合を想定しています。

＜屋内の場合＞

- ・他者と身体的距離がとれない場合(会話をほとんど行わない例:通勤電車)や、他者と距離がとれるものの会話を行う場合は、マスクの着用を推奨します(※)。
- ・他者と身体的距離が確保できて会話をほとんど行わない場合(例:距離を確保して行う図書館での読書、芸術鑑賞)は、マスク着用は必要ありません。
- ・高齢者等との面会時や病院内など、重症化リスクの高い者と接する場合にはマスクの着用を推奨します。

※「他者と距離がとれるものの会話を行う場合」については、十分な換気など感染防止対策を講じている場合はマスクを外すことも可能です。

ただし、屋内は換気状況や建物の構造などが一律ではないため、マスクを外す際には、それぞれの場面において、感染拡大防止のために講じられている対策や当該屋内施設の管理者の指示等も踏まえ、適切に判断していただくようお願いいたします。